

2022年度 上期 関東・中部ブロック会議報告

1. 4月20日（水）14：00～上期 関東・中部ブロック会議が Zoom を使用したオンライン会議にて開催されました。参加産地は30産地から52名、消費者幹事4名、パルシステム関係者13名、合計69名の参加がありました。
2. 倉林副ブロック長（沃土会）の進行により開始され、大津代表幹事（無茶々園）より冒頭で開会挨拶がありました。続いて小川副代表幹事・生産者運営委員長（JAつくば市谷田部産直部会）より生消協2022年度方針の説明があり「2年強のコロナ禍で生産者とパルシステム役職員の交流ができなかった。2022年度はハイブリットや対面での交流を推進していこう」と呼びかけられました。
3. 次に、パルシステム連合会報告として、渋澤専務理事より2021年度実績・2022年度方針などについて報告され、産直事業本部の那須第1事業部長より2021年度実績や、2021年度3月供給状況、飼料・肥料高と国産自給飼料の取り組みなどについて報告されました。
4. 実績報告後、毛利ブロック長（野菜くらぶ）より生消協2022年度方針に則って産地ビジョンづくりを行うにあたり、講演の趣旨説明がされました。続いて、株式会社MISO SOUPの山岸氏、山下幹事（アップルファームさみず）より報告され、「後継者自身が動けるビジョンを考え意思統一を目指した」「過去を振り返り、当時の経営判断が見えた」「目指さない、やらない方向性を定めた」などの手法や、第3者が伴走者として関わる効果について報告され、山岸氏からは「ビジョン無しには組織が持続しない可能性があります。今一度ビジョンづくりを」と呼びかけられました。
5. 後半は椎名副ブロック長（村悟空）の進行により、9グループに分かれグループディスカッションを行いました。テーマは産地ビジョンとし、講演の感想や各産地の課題報告など、30分間の意見交換では各グループとも活発な意見交換が行われました。
6. グループディスカッション後、代表者から話し合われたことの共有として報告されました。「第3者がおらずビジョン作成が止まったことがあった。第3者がいれば客観的にビジョン作成ができたのではないか。」「世代交代を考えているが、若い世代が組織の中で表に出てきていない状況が問題。」などの報告が寄せられました。 ※全グループ議論のまとめは別紙参照
7. 消費者幹事からのコメントとして、小谷幹事（パルシステム山梨）より、「消費者としてできることを真剣に考え、これからも一緒に協力していきたい」と報告され、毛利ブロック長のまとめの後、閉会となりました。

